

春風秋霜 11月号

平成 29 年 11 月 1 日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一喬

1 各種行事に参加して

10月14日(土)に行われた『MOA 児童作品展表彰式』では、参加総数 1,050 人の中から選ばれた絵画・習字各 26 人が表彰されました。表彰された作品はどれも素晴らしく、絵画の受賞作品は、どれも丁寧さや根気強さなど、子供たちの熱意が伝わってくるものばかりでした。習字では、書くことが好きだから出品した子や、昨年うまく書けなかったから今年も同じ文字で出品したという子供の作品もあり、作品にこめる思いを感じました。

10月15日(日)には『初倉祭り』が行われ、初倉地区の各学校も参加していました。あいにくの雨の中で、広げたブルーシートを頭上にかざして楽器を運ぶ初倉小学校の子供たち苦勞と工夫に頭が下がりました。

このように苦勞はあったものの、子供たちの発表は、会場をいっぱいにした地域の皆様に大変喜ばれていました。子供たちにとっても市内音楽発表会前の大きな自信になったと思います。

初倉公民館内では、地域の方々や子供たちの作品が展示されていました。子供たちの素晴らしい習字の作品にも目を奪われました。また、押し花や粘土細工のコーナーでは、体験教室も行われ、子供たちが熱心に作業に取り組む様子が見られました。



粘土細工を教わる子供

10月22日(日)にローズアリーナで行われた『手書き文字に親しむ会』では、子供たちが模造紙に習字用絵の具で「お母さんありがとう」や「〇〇大好き」などと、自分の思いを楽しく表現していました。また、自分の好きな文字を書いたカレンダー作りにも挑戦していました。



習字を楽しむ親子

各種の大会や行事への参加は、その経験を通して子供たちが学ぶものは多く、これからの生活にとって、新たな一歩に繋がるものもあるはずです。学校でも子供が多様な体験に挑戦するよう、子供たちの背中を押して頂けたらと思います。様々な体験が子供の成長には欠かせないと思います。

2 市子連ドッジボール大会に参加して

10月15日(日)市子連のドッジボール大会がローズアリーナで行われました。400人近くの小学生が参加して、異なる学校の子供が一つのチームをつくり、ドッジボール大会を楽しみました。

子供たちの中には、緊張した様子の子供もいましたが、周りの様子を見ながら行動している姿に、子供なりに頑張っているなと思いました。同じ学校の子供との会話に夢中になってしまう子供とは、得るものに差があるなと思いました。

グローバル化が進み、変化の激しいこれからの時代には、知らない人とも信頼関係をつくり上げる力が求められます。そのためには、コミュニケーション力が大切です。大人数の中で活

動する機会や、他校の子供たちと触れ合うこのような企画に参加することは、とても大切なことだと思います。

3 学校訪問を通して

学校訪問で授業を参観すると、子供たちが盛んにつぶやきを発している授業に出合います。授業に集中している子供は、自然に反応して言葉が出てしまうことがあります。六合小学校でも、このような授業を参観しましたが、教師はつぶやきを大切にしつつも、しっかり挙手させ、指名してから発表をさせていました。

この授業を参観し、私は、若い頃の自分を思い出しました。その頃、小学校に勤務していた私は、子供たちのつぶやきを大切に、つぶやきの中に教師が求めている答えを見つけると、その子供を指名する授業を行っていました。授業は教師の計画通りに進みましたが、ベテランの先生から、反応の早い子や声の大きな一部の子供たちで進む授業になっていると指導されました。更に、きちんと挙手してから発表させないと、他の先生の授業や中学校では活躍できない子供になるとも指摘されました。

授業は、できるだけ多くの子供たちが参加することが求められます。つぶやくことによって授業に参加する子供もいることから、つぶやきを拾う授業を否定するつもりはありませんが、偏った授業の弊害も認識する必要があります。

伊太小学校では、「友達の名前をつけて、言葉でつながろう」を合言葉に、「〇〇さんの意見を聞いて、私は、こう考えたよ」のように、友達との関りを意識して、考えを深め、授業が楽しい学校を目指しています。発表の仕方も工夫次第で様々な効果が期待できますから、教師の意識や姿勢が大切だと思います。

肘かけ椅子

加藤 雅道 スポーツ振興課長

少し前の話しになりますが、この夏（8月）、姉妹都市である富山県氷見市を交流事業（長野県大町市と3市の交流事業）でスポーツ少年団の子供たちと訪問いたしました。旧金谷町時代から数え、24回目となります。約30人の子供たちと指導者での訪問でした。

台風10号が九州地方に近づいており、少し心配されたところでありましたが、天候にも恵まれ、無事行程をこなすことができました。氷見市の事務局の皆さんには感謝、感謝です。

現地では、フィッシングや海水浴、トートバッグ作りなど、多彩な催しものが準備されており、子供たちの楽しそうな笑顔と元気な様子が印象に残りました。同じスポーツに励む仲間との交流は、島田の子供たちにとっても良い夏休みの思い出になったのではないかと感じたところです。

スポーツ少年団は少なからず少子化の流れを受け、全体的に団員数も減少傾向にあります。団の存続が難しくなっているところもあると聞いています。また、スポーツ少年団がクラブチーム化しているところもあり、本来の趣旨からずれてきている気もしていますが、時代の流れなのでしょうか？

再来年の2月には、長野県大町市で交流事業が開催される予定になっています。また、子供たちの笑顔と元気な様子が見られるでしょう。

子供たちが心身ともに元気なのが何よりと感じたひと夏の出来事でした。